六畳間には侵略者の置き場がない！

R18
ADULT ONLY

ゆきしずく
yukisizuku

本書は
六畳間の侵略者！？の
それぞれ別のエンドとも
ハーレムエンドともとれる
内容になっています。
若干のネタばれも
含まれますので
ご注意ください。

孝太郎は着衣が乱れたキリハを観覧車のガラスに押し付けると、
自らの肉棒をキリハの秘所に優しくこすりつけ始めた。

「だ、駄目だ孝太郎！こんなところでしたら誰かに見られてしまう！」
「そ、それにここは汝と我の想い出の場所だ。不埒なことをしては罰があたるぞ…」

確かに、想い出の観覧車での行為など、普段の孝太郎とキリハでは考えられないだろう。
むしろ、想い出を汚す行為だと嫌がりさえするはずだ。
しかし、制止の言葉とは裏腹に、キリハの顔は
孝太郎の肉棒の熱さですでに蕩けきっていた。
そんな表情をされていてなお、自らの欲望を抑えることは
今の孝太郎にできそうもなかった。

「いくよ、キリハさん…」
そう囁くのと同時に、孝太郎は挿入を開始した。

「ふ、ふぐうぅぅん…♡ほ、本当にこうたろうのおちんぽきちゃったよおぉぉ♡」
いつも冷静なキリハだが、孝太郎との交わりの際は
甘えん坊なもう1人のキリハが顔をだす。
言葉遣いも普段では考えられないほど卑猥なものへと変わるのである。
キリハの淫靡な様を見せつけられると、孝太郎はついいじわるをしたくなる。
もっとキリハに気持ち良くなってもらいたいのだ。

「キリハさんのなかいつもより熱いぞ。すごくいやらしい…」
「そ、そんなこといわないれぇ…あっ♡あんっ♡おくぐりぐりしゅるのだめらよぉっ♡」
「でも、うねりねしながらぎゅうぎゅうしめつけてきてるよ？気持ちいいんじゃないの？」
「んっ！んっ！んっ！ふ、ふにゅうぅぅんっ♡き、きもちいいかなんてきくなばかあぁっ♡」

観覧車が地上に戻るまではまだ時間がある。
孝太郎とキリハの幸せなひと時は、もうしばらく続きそうであった。

「まったく…こんなに膣にだすとは…」
呆れた口調のキリハが足をあげると、彼女の桃色の割れ目からは白濁液がごぽごぽとあふれだしてきた。

「返す言葉もない…」
自らの行いを反省し、肩を落とす孝太郎。
さすがにやりすぎたと自分でもわかっているのだ。

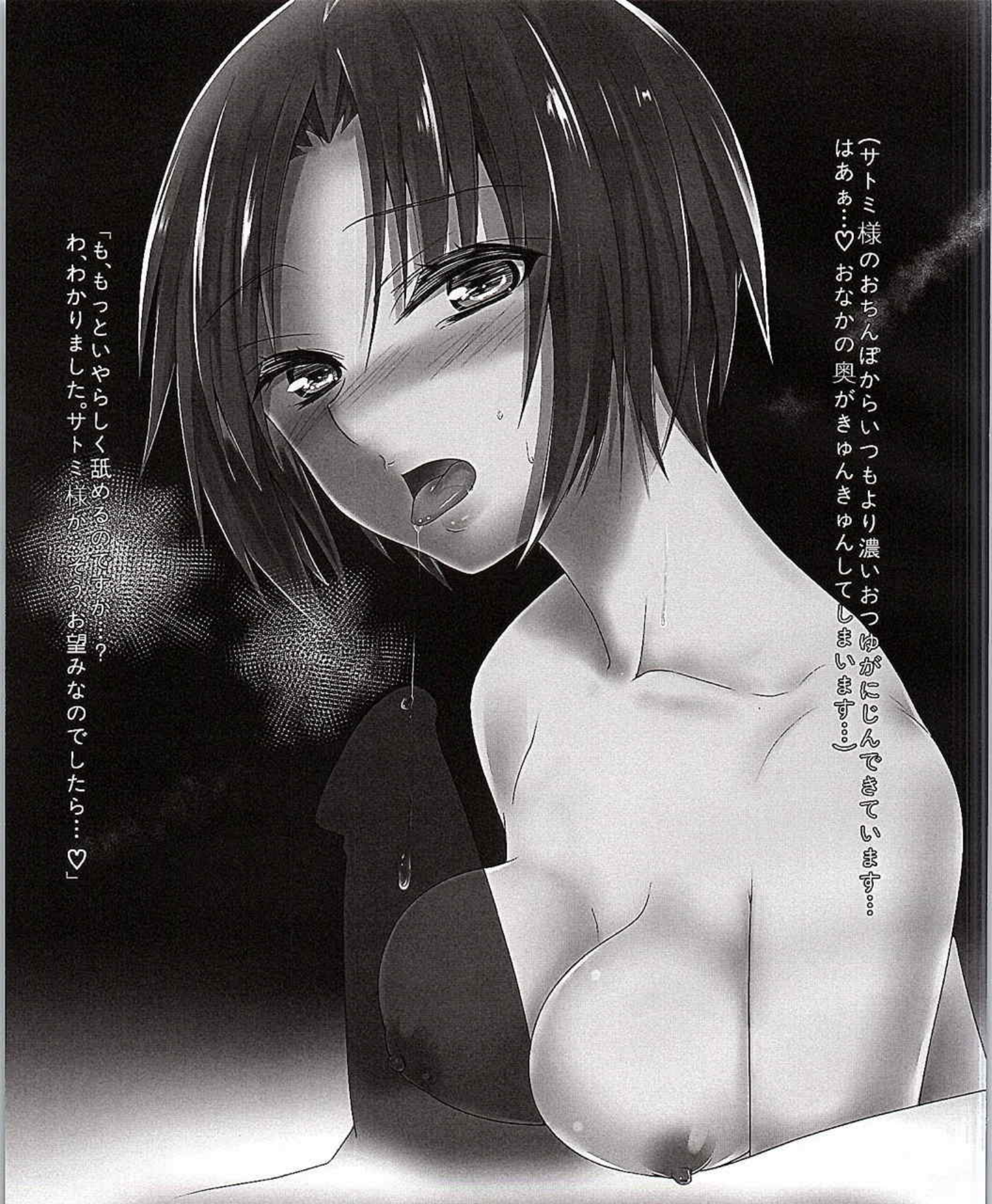
「ふふっ…汝にはきちんと責任をとってもらわねばいけないようだな…」
しかし、小声で囁かれた言葉に顔をあげた孝太郎の目には、
悪戯っ子のような表情のキリハが微笑んでいたのだった。

「うっ…くはぁ…」
硬く、熱くそそりたつ自分自身の分身をティアに丹念に舐められ、
孝太郎の口からは思わず声がもれだしていった。

普段は強気のティアが、このときばかりはその大きな目を
うっすらとうるませ、上目遣いに見つめてくる。
最近の孝太郎はこの顔のティアを見ていると、言い知れない快感によって
ぞくぞくと背中が震えることが多くなっていた。

「ティ、ティア…だすぞ…！」
ティアの顔をぐっと押さえつけ、その小さな口に自らの子種をどくどくと注ぎ込んでいく。
初めの頃はすぐに吐き出してしまっていたティア。しかし、今ではのどをこくこくと鳴らし、
うっとりとした顔で大半の白濁液を飲み込めるまでになった。

一国の皇女であるティアが孝太郎だけに見せる特別な表情。特別な行動。
その事実を確認すると、孝太郎の分身はまたむくむくとそそり立ってしまうのだった。



「なあ、ルースさん」
「ふぁい…？」
孝太郎の呼びかけに顔をあげるルース。
彼女の艶かしい舌先から落ちる一筋の光が、孝太郎の内なる欲望を更にかき立てていく。
「もっと…いやらしく舐められないか…？」
孝太郎の大胆な要求に少し頬を赤らめつつ、ルースは静かに頷くのであった。

ティアとルース、2人の奉仕を受けた後にもかかわらず、
孝太郎の勢いは衰えなかった。
「ふぁぁんっ♡そ、そんなにぃっ！はげしくはぁ！
だ、だめなのじゃあぁぁぁぁっっっ♡♡」
「サトミさま♡サトミさまぁぁっ♡ルースの変態おまんこにぃっ！
もっと…もっとおしおきしてくださいぃぃぃぃ♡♡」
「い、いくぞ2人とも！だすぞ！」
小さく締めつけの強いティアとざらざらとした内壁で絡みつくルース。
2人の名器を交互に貫く孝太は今夜3回目となる絶頂を迎えていた。
最後の理性を働かせ、なんとか自らの肉棒を引き抜いた瞬間、
ティアとルースの身体にねばねばとした白濁液が飛び散る。
「コ、コータローの 精液…コータローの 精液じゃぁ…♡」
「あぁぁ…♡この匂い…♡サトミさまの…こだねぇ…♡」
恍惚とした表情を浮かべる2人の美少女。
もう限界を迎えたと思っていた孝太郎の分身も、
そんな2人を見るだけであっという間に元気を取り戻してしまう。
3人の夜はまだまだ終わらないようだ。
「コ、コータロー！…こ、こんなのきもちよすぎるのじゃあぁ…♡」
「サトミさま…サトミさまぁ…♡あいしておりましゅうぅぅ…♡♡」

『あんっ！ひぐっ！やんっ！きゃんっ！そ、そんなにぃ！ぱんぱん！しないれぇ！孝太郎ぉ！』

言葉では抵抗を見せている早苗だが、とろんとした表情はそれが口先だけであることを物語っていた。
初めのころは『痛い』とすぐに苦悶の表情を浮かべてしまっていた早苗だったが、
身体が慣れ始めると積極的に交わりを求めてきた。
気がつけば、『両手をお守りで縛る』という少し変わったプレイを望まれているのだから、経験というのは恐ろしい。
早苗の柔らかな肢体を思う存分堪能できるのだから、孝太郎としては不満はないのだけれど、

『ひぐぅぅぅっ♡きもちぃぃっ！きもちぃいよぉこうたろぉ！
こうたろうのおちんちんでぇっ♡ぱんぱんしゃれちゃうのぉっ♡
らぁいしゅきなんらよぉっ♡♡』

早苗のことだ。きっとまた新しいことをしてみたくなるんだろう。
緊縛の次はどんなやり方をすれば、早苗は喜んでくれるのか。
彼女の嬌声を聞きながら、孝太郎は思いを馳せてしまうのだった。

あとがき

こんにちは。ながねこです。

今日は締め切り最終日です。テレビ関係の回線の工事が入ってます。
でもそれくらいで作業を止めることはできないので描いていたのですが、
どうしても掃除機くらいはかけたいと掃除していたら、
画面がきキリハさんのおっぱいのドアップの状態で放置していたらしく、
掃除の終わりかけにいらした作業の方がそのまま画面の目の前を通るという
危機的アクシデントが発生してしまいました。
なぜ休止状態にしておかなかった私！
描いてても楽しんでてもアウト…
男の作業員の方で良かったのかな？いや、良くないか。見られてない事を祈ります。

だいぶタイトな作業日程のなか、不思議なことになぜか右ひざが腫れてきてしまって、
神様に「無駄に動かず、ただひたすら描け」と言われてるような気がしました。
今はほぼ完治しました。

さてさて、今回のイラスト集はだいぶ短期間で作ったので、ページ数が少なくなってしまいましたが、
できる限りのクオリティで頑張ってみました。

イラスト一枚でえっちさ満載にするのは大変ですが、遅筆なので漫画に比べて
描き込む時間がとれるのはありがたいです。
今回のイラストは試しで描き方を色々変えてみたのでちょっと統一感なくなってしまったかな？

タイトルは原作者リスペクトでどうしてもこのタイトルにしたくて、内容とあんまり関係なくなってしまいました。
（ティアの衣装なんか完全に趣味です）
そこで、いつもシナリオや文章を担当してくれてるサークルメンバーに
設定考えてもらったり、今回の文章も書いてもらいました。
本人の希望で名前はいつも載せてませんが、影で支えてもらってます。

今回はおかげさまでなんとか新刊2冊出来上がりました。（出せてるよね？）

もっと描く枚数を増やして安定と技術向上したいです。
でもとりあえずこの本が上がったら数日間はマンガ読んだり、
やたら手の込んだ料理を作ったり、
実家の猫にセクハラしに行ったり、惰眠を貪ったりしたいです。

ではでは、またお会いできるのを祈りつつ。

2014/08/17　ながねこ

ユリカには
居場所がない

奥付

発行日	2014/08/17
発行元	ゆきしずく
発行者	ながねこ
印刷	㈱ポプルス様
mail	naganeko0630@gmail.com
web	http://yukisizuku.sakura.ne.jp/index.html

六畳間には侵略者の置き場がない！

ゆきしずく
yukisizuku